

## 【記録】令和5年度第1回徳島県立池田支援学校学校運営協議会

### 1 会次第

9:40～10:15	授業参観（「職業」の時間）	任意
10:25～12:00	学校運営協議会	
	開 会	
	学校長挨拶	
	委員自己紹介	
	役員選出	
	会長挨拶	
	協 議	

### 2 協議における委員からの提言・感想

#### <道の駅 いたの駅長>

- ・すべての校種と関わりがあるが、池田はすごいと思う。昨年からの引継ぎがしつかりとなされている。熱心な方が多く、よい環境であると感じる。
- ・将来地域に出ることを考えると、学校の意味は大きい。例えばICTをうまく活用すると様々な方とつながるツールになる。子どもたちもオンラインゲームなどですでにコミュニケーションをとっている。外部の方を招くなどして、今の時代のもを学ぶ機会があればいいと思う。先生が進んでオンラインでつながり、楽しむ姿を子どもたちにみせてあげるなど、なんでもいいので地域の人を巻き込んで学ぶ機会になればいいと思う。
- ・社会に出ると、社会のギャップにびっくりすることだろう。社会は厳しく、責任感が必要である。RPGやシミュレーションができればいいのだけでも。
- ・学校の意味・役割として、現代社会に出た時の厳しさや人間味の大切さが伝えられるといいのではないかと思う。

#### <ケアプラザ美馬施設長>

- ・毎年の積み重ね、よりよくなっていて素晴らしい。今の現状を知ること、進みたい未来を見据えること。その間のプロセスを考えることが大切になるが、よく工夫されていて素晴らしい。
- ・卒業後の生活のほうが長い。生活の自立、経済の自立について、改めて感じた。
- ・卒業後は、労働者となり消費者となる。人がいないと人にサービスを提供できないことから、人材の確保が重要である。地域の一人として、うまく地域に広げられていると感じる。

#### <池田学園施設長>

- ・（学校評価より）就業体験では、1年生は校外実習をしないのか？  
→高等部1年生は、まず校内で力をつけ、その状況により後期の就業体験から校外実習に出る生徒もいる。
- ・就業体験の行先はどのように決定しているのか？  
→夏季休業中の家庭訪問時に、本人保護者から進路先について希望を聞き取っていただく。また1年生は2月に進路相談を行い進路希望、合わせてそれに伴う前期就業体験での実習先を確認している。そして、就業体験期間が近づいてくると、もう一度本人保護者、学園の担任の先生、学級担任の想いを反映させて実習先を決定している。

- ・(学校評価にあった)「生命(いのち)の安全教育」を、重点的にしていただけたらと思う。グループホームでも取り組んでいるが、なかなか難しい。卒業後の生活の場所であるグループホームでも、性の問題など耳にすることがある。

#### <Next代表>

- ・メモをとり、目標を立てる授業を見させていただいた。メモは、仕事のやり方だけでなく、気づいたこともメモができるといいと思う。
- ・地域の納涼祭が開催される。そういう場に出店できればいいのではないか。みまカフェと一緒にできないか、何か一緒にやりたいと思っている。運営に関わることで、より充実感や達成感が得られるのではと思う。自分から「学校に行きたい」という気持ちを育てることができればいいのではと思う。

#### <鳴門教育大学教職大学院准教授>

##### 学校評価のプランより

- ・本校の評価指標は各部署考えられていて、何をして何を実現したいのかがよくわかる。また、目標がレベルアップしていているのがよい。子どもたちに何の力をつけたいのかがわかる。
- ・小学部の目標の社会性やコミュニケーション力については、毎年少しずつ目標を達成し、レベルの高い目標になっている。
- ・分校の「3 家庭・地域・関係機関との連携・協働をととした学校づくり」の「高等部(2) 地域の役に立つ力～」の目標については、地域貢献の力をはかるのがすばらしい。地域を元気にしようとする力に注目しているのがよい。
- ・分校は、地域貢献の力をはかるように、他の分掌でもできたらよい。「活動を〇回した」ではなく、その活動の中身が大事である。評価の方法を回数だけでなく、アンケートなどで変化が感じられるようになればなおよい。学校評価は、改善するための目標である。
- ・展望として、「地域を元気にする力」が学校の力によってどこまでできたのか、楽しみにしている。

## 2 学校運営協議会の今後の運営について

委員の方々と教員が2班にわかれ、今後の運営について話し合った。委員の方々から学校と地域の連携に関するアイデアや御意見をいただいた。

- ・「博愛祭り」がなくなってしまったが、近年「とことんまつり」がはじまった。現在作品展示などで学校も参加しているようだが、今後参加の方法を検討する余地があるのでは。
- ・「箸蔵山荘」で農福連携として農作業をしている。特に芋に力を入れており、学校の子どもたちも参加できないだろうか。そこで収穫したものを加工し、「子ども食堂」に配付するというのもできるのではないか。
- ・昨年高等部1年生が分校を視察し、本校でも校内の教職員対象に「カフェ」を実施した。2年生になり今年度は校外にも目を向けて計画している。池田学園内でも生徒中心に「カフェ」が実施されたようで、今後の展開が楽しみである。
- ・「地域を元気にする活動」そのものがよい教育活動になるのでは。自分たちが手掛けたことが、この後どうなって、どのように喜ばれているのかまで感じ、学べるとより効果的である。

#### (美馬分校)

- ・美馬町のグラウンドにおいて、年2回、納涼祭(7月)とクリスマス会(12月)を、また、旧喜来小学校において、年2回「喜来感謝祭」を行っている。地域の

皆様だけに限定して出店者を募っているのですが、そういうイベントの機会も活用していただける。どれも出店料は発生しない。

- ・ イベントへの出店となると、事前に準備して、提供して、片付けまでという1つの工程が少し変わってくると思うので、それらも含めて、すごくいい体験になると思う。
- ・ 出店する場合には、「出張するならこういう形態で」といったシミュレーションを1回しておいたらいいと思う。
- ・ 出店以外の子どもたちも参加できるイベントなので、お客様の立場から「次は僕も出店側になりたい」と思っていたら効果があるのかなと思う。
- ・ ホームページは、自分で「池田支援学校美馬分校」と調べないと出てこない。また、興味のある人しか見ていない。みまカフェも知っている人は知っているけれども、サイトに入っていくと詳細が分からない。SNSは拡散できるので、ホームページだけでなく、SNSを活用して学校の取組を発信してはどうか。
- ・ SNSはトラブルの原因にもなっている。卒業後、急にツイッターやインスタグラムを使い始めたら危ないので、授業の中で学んでほしい。取り組んでいただきたい。今後は、若者たちが生きていく上での必須項目になってくると思われる。
- ・ コロナ禍前に行っていた高齢者施設の利用者と生徒による「レクリエーション大会」や、高齢者の方の「みまカフェ訪問」といった交流活動は、大きな負担感なく、継続して取り組んでいくことができると考える。一緒にレクリエーションをすることは、生徒たちによる「高齢者の楽しむ支援（サポート）」と捉えることができる。コロナが5類になったことを機に、コロナ禍前の形にもどせたらいいのだが、高齢者施設においては、まだまだ様子を見ながらといった手探りの現状がある。